

乾乳牛は明日の収入を稼いでくれる重要な牛たち

乾乳牛は、牛乳が出ていない稼がない牛なので、一昔前はおろそかにされていることが多かった。劣悪な環境で飼われていたり、品質の悪い飼料が給与されていたりしていた。そんな乾乳牛に対する考え方が、乳量の低下や周産期病の多発につながっている事を知って欲しい。

乾乳牛は、2ヶ月後以降の酪農場の経営を左右する酪農場で最も大事な牛たちです。これらの牛を「ぞんざい」に扱うことは、酪農経営が悪くなる契機になります。乾乳牛は、乾乳期に胎児が急激に成長するために多くの代謝タンパク質を必要とします。さらに初乳の製造にも代謝タンパク質は使われます。エネルギーとは異なり、母牛の体にはタンパク質の貯蔵量は少ないので、筋肉を削って必要量を賄います。これが周産期病の根本的な栄養問題です。

周産期病を減らし、乳量をより多くしたいと考えるのであれば、乾乳牛の栄養と環境の整備が必要です。妊婦さんを風に曝したり、粗食にしたりしたら病気になります。飼料はあっても食べられる環境を作ることも重要です。天候の影響を受ける飼槽であったり、吹き曝しであったりしては、体を維持する熱エネルギーの必要量が大きく異なります。栄養と環境をコントロールすることが、周産期病の発生を防ぐ手段です。

天候の影響を受ける乾乳牛の飼槽



西日が入り暑さの影響を受ける乾乳舎

